

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第34号 2007年3月

発行人：加藤 栄護 編集長：外岡 明 事務局長：吉田 博行
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-47-5 Tel 03-3713-2096

2007年 新年会 盛大に開催

2007年1月8日(月、成人の日)にこまばエミナースにおいて目黒稲門会新年会が盛大に開催された。参加者は来賓を含めて75名となり、にぎにぎしく且つ和気藹々の新年会となった。

第一部は中上美代子幹事の司会により、まず加藤栄護会長の新年の挨拶があり、目黒稲門会は8年になるが極めて元気な高齢者先輩に恵まれ、皆さんと共に今年も元気に活動して行きたい。本日の講演会の講師奥島孝康早稲田大学前総長は、早大の革マル派を撃破してまともな大学に育て上げられた。また先生は、地方文化重視の観点から早大のあるべき姿を構想し、グローバルとローカルを結び合わせたグローカル・ユニバーシティを提唱指向された。我々もこれに賛同し推進する必要があると思っているとの話があった。

次いで奥島前総長の経歴、著書等の紹介のあと、「早稲田人の心の原点“都の西北”」との演題で、心の原点が何処にあるのかについて極めて興味のある感銘深いお話を頂いた。次ページに抜粋を纏めたのでご参照下さい。

第二部懇親会は石川智子幹事の司会により進められた。先ず、早稲田大学125周年記念事業募金局課長・広瀬 剛氏より挨拶を頂いた。愈々125周年記念の年を迎え、募金は130億円を突破した。4月に銘板の記録は一旦締切るが、引続き絶大な協力をお願いしたいとのことであった。

次に、青木英二目黒区長より、稲門会の皆様には区政で大変お世話になっている。住み続けたい目黒区作りに引続きご協力願いたいとの挨拶があった。

ここで、松岡雅敏幹事のハンカチ王子にまつわる野球部の話や祝辞に続き、乾杯の発声により懇親会に入った。歓談が続く中、土川俊雄副幹事長が各テーブルを巡回し初参加の会員8名の方々を紹介し、ひとことご挨拶を頂いた。同時に石川智子幹事が角帽を持って各テーブルを巡回し、125周年記念募金への協力を依頼して回り、集まった寄付金に会資金より若干の補

填をして15万円とし、広瀬募金局課長に贈呈した。

次いで、海口昭治カラオケ部会長が登壇。先ず奥島前総長にお願いして「人生劇場」の歌と口上を熱演して頂き、大喝采を博した。続いて加藤会長の「火の国旅情」、青木区長の「新潟ブルース」、田畑 繁会員の「群青」、松岡幹事の「花と龍」、荒瀬修一郎相談役の「影を慕いて」が熱唱され、最高に盛り上がったところで恒例の伏見和則会員のリードで全員肩を組み校歌を斉唱し、八幡和三郎副会長の中締め挨拶をもって盛会裡に閉会となった。



出席者 (五十音順 敬称略)

(来賓) 青木英二、奥島孝康、広瀬 剛

(会員) 浅海敏之、芦沢哲男、阿部喜久雄、有山勇次郎、荒瀬修一郎・令嬢、安藤嘉昭、石川智子・家族・友人2、市瀬一江、市瀬達夫、伊藤源喜、伊藤 悠、井村正陽、岩佐好恭、岩崎正夫、鶴野洋治、海口昭治、大竹一子、大野利幸夫妻、小野 満、海沼美智子、加藤栄護夫妻、川井信義、川崎真樹子、紀本直幸、桑野祐光、郡山弘文、小杉 哲、後藤克彦、桜井輝隆・友人、島田久家、嶋田勝彦、杉山 弘、鈴木 徹、関 和平、高橋圭吾、田島順一郎、田畑 繁、千野逸平、土川俊雄、手塚仁雄、外岡 明夫妻、永井純一郎、中上美代子、長島清志、服部尚彦、林田雅敏夫妻、樋口定廣、樋口俊彦、平沢榮夫、伏見和則、松岡雅俊夫妻、松田哲也、水野弘文、村上 満、森家一三、保井 正夫妻、八幡和三郎、横山 大、吉田博行、渡辺三郎夫妻

奥島前総長の講演抜粋

(早稲田人の心の原点「都の西北」)

①大隈さんがあらゆる意味での原点であることはご存知の通り。大隈さんが亡くなった時早稲田の有名な歌人窪田空穂先生が詠まれた句をご存知と思う。「君なくば早稲田大学なかりけん。大学なくば吾ここに居らじ」。ここに居られる皆様は大体そうではないかと思う。私など正にそうである。この早稲田大学の心と言うものは何であるかを考えた時思い出すのは、いくつかの早稲田大学を作り上げる切っ掛けになったものである。一つは大隈さんの生き方、一つは早稲田大学に魂を吹き込んだと言われている小野 梓先生の生き方、もう一つはその二人の志を受け継いで今日の早稲田を作り上げた経営能力をお持ちの高田早苗先生と言うことになる。この三人の考え方を合わせれば早稲田大学の心の原点が見えて来る。

②大隈さんは大変な勉強家、藩学から蘭学を学んだが、世界は英米が動かししているのに気付く英学の勉強を始めた。折しもアメリカから三人の宣教師が来た。その内の一人フルベッキと公立学校「致遠館」を作った。早稲田大学にこの名を使いたかった。

③後に政府高官になり、大隈さんが中心になって今の東京大学を作り、フルベッキを教頭に呼んだ。またもう一人の宣教師ウィリアムは後に立教大学を作ったが、大隈さんは彼から沢山学んだので余は立教大学の卒業生であるとも言った。早稲田大学と立教大学、学習院大学、日本女子大学でフリーキャンパス、学習院女子大学を入れてファイブキャンパス、歩いて行ける範囲にあるのでエフキャンパス（フットキャンパス）と称し昔の縁を取戻しつつある。また大隈さんは日本女子大学の創立委員長でもあった。それから同志社が大学に昇格の際求められた寄付金の大部分を大隈さんが集めたことから大変親しい関係にある。また同志社は早稲田大学初期の頃沢山の人材を派遣してくれた。昔からの親戚である。

④明治14年の政変で野に下ったが、近代化を担う「下から支える優秀な活動家」が必要ということで翌年東京専門学校を作った。大隈さんを慕って東京大学出身の優秀な人材が、安月給をいわず集まり、今日の基礎を築いた。大隈さんの貧しい人を身をもって救えとの心情を理解した学生が集まった。

⑤当てこすった言い方で「早稲田が耕し、慶応が種まき、東大が刈り取る」と言われ腹が立ったが、決して悪いことではない。早稲田の人間は世のため人のために汗をかき涙を流すという生き方をして行かなければならない。大隈さんは早稲田大学にそういうところを最も期待したのではないか。大学のアイデンティティはこれで良い。

⑥他方反発し合っていた慶応大学の福沢さんと明治6～7年に会って意気投合し、明治14年政変の後大隈さんの求めに応じ自分の処で育った優秀な人を10人近く送った。尾崎行雄、犬養 毅もいた。小野 梓先生を中心に立憲改進黨を作った。

⑦大隈さんは新政府に与えられた人材だけではどうにもならないとして、徳川幕府の中から後に日本資本主義の父と言われた渋沢栄一や、通信制度、郵便制度を作った前島 密をはじめ多くの人を登用した。出身や出身地にこだわらず、志が高かった。

⑧民生面でも社会の中で虐げられた人達を日本の近代化のために参加させる手を打った。大隈さんの当時の雉子橋（今の飯田橋）の家の中に大隈大明神と言われて賽銭が投げ込まれた。

⑨人材以外では早稲田が持っていた報知新聞がある。明治以来の伝統ある新聞であるが残念ながら今は読売新聞傘下のスポーツ新聞になり下がっている。

⑩笠 智衆さんが書いたが「イギリス人は歩きながら考える（経験主義）。ドイツ人は考えた後走り出す（観念主義）」。私は早稲田大学の在り方は経験主義（行動派）でなければならないと思う。自分で汗を流す人を育てることを大隈さんをはじめ最初に早稲田を作った人達は身をもって示されたのではないか。それがまた早稲田大学の伝統でなければならないし、心の原点でなければならない。

（島田 記）

新年会初参加の会員等



写真 右から

岩佐 好恭氏（昭和34年法）

鈴木 徹氏（平成11年理工）

後藤 克彦氏（昭和42年文）

樋口 俊彦氏（昭和40年文）

鶴野 洋治氏（昭和39年商）

嶋田 勝彦氏（昭和41年法）

川崎真樹子氏（昭和50年法）

安藤 嘉昭氏（昭和42年法）

○渡辺 剛氏（平成8年文）

○大山 妙子氏（平成18年理工・院）

（○印のお二人は石川智子幹事のご友人）

会員の消息

(新入会員)



福井 正康氏(上目黒)

昭和32年 商

早大バドミントン部 第3代監督
サラリーマン30年、自営20年、
ホームカミングデイも卒業。宜しく。



牟田 伊之氏 (越谷市、以前目黒区在住)

昭和33年 商中退 趣味 ゴルフ・旅行
スキューバダイビング
叔父の代議士秘書をするため、4年で中退。
仲間に入れて頂き幸いです。



地田 博昌氏 (目黒本町)

昭和44年 政経 趣味 旅行・音楽鑑賞
目黒稲門会を知りませんでした。何時ま
でも昔のままの気持ちで交友を続けられ
ることは素晴らしいことです。

奥山 哲朗氏 (柿の木坂)

昭和40年 政経 趣味 ゴルフ・釣り・
ラジコン・スキー
会社経営(広告・映像・イベント等の
企画、制作、デザイン)

〇訃報

田中 三郎氏(昭和25年 商) 平成18年10月 3日

榎本 茂氏(昭和28年 政経) 平成18年11月27日

品田 一良氏(昭和26年 文) 平成19年 2月 8日
(目黒稲門会 相談役)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

校友会だより

東京都23区支部大会ご案内

日 時 2007年3月5日(月) 18:00

場 所 リーガロイヤルホテル東京

第一部 講演会

第二部 懇親会

会 費 10,000円

☆ 講演会 ☆

講師：早稲田大学大学院教授

日経新聞客員コラムニスト

田勢 康弘氏

演題：「政治展望—誰が日本を救うか—」

多くの皆様のご参加をお待ちしております

出席希望の方は目黒稲門会事務局迄ご連絡下さい。

23区担当幹事 大竹 一子

リレー随筆

去年のゴルフは雨が多かった

安居院 文男(昭和41年 文)

去年のゴルフは、なんだか雨に当たった。しとしと
ぐらいなら良いが、ざーざー降りはコースに出る
前に、中止にする方が賢明なこともある。出発する
前に中止すれば料金はかからないのが、最近のほ
とんどのゴルフ場だ。

もちろん、雨のゴルフも悪いことばかりではな
い。しとしと雨なら、ボールがグリーンに落ちれ
ば、ぴたぴたと止まる。かえって集中して、打てる
こともある。有給休暇を取って、会社を休んだの
に、雨でコンペが中止になっても、がっかりするこ
とはない。それは、ゴルフへの情熱を感じるチャン
スでもあるからだ。がっかりしたり、ぶーぶー言う
人は、それだけゴルフにはまっているのだ。人間、
何かにはまっているときが一番幸せなときではな
いだろうか。普段は、つい何気なく、当然のように
ゲームを始めているが、ゲームができることは、沢
山の偶然の結果だと言うことを思いだそう。

嘘ではない。まず、家族や親族に、急病や不幸が
なかった幸福。会社での大失敗やクレーム、大問題
がなかったことの幸せ。車や交通機関が大きな問
題もなく流れていて、時間通りにゴルフ場に着い
たことの幸せ。ゴルフをするための仲間がそろっ
て集まったこと。何より、当日や前日に、自分が大
きな病気や、怪我がなかったこと。ゴルフが中止に
なって、そういうことを考えられたこと。

大げさと思うなら、例を挙げよう。家族や親戚の
例では、近い親戚の誰かが、危篤になったとか、年
老いた両親が危なくなったとかで、ゴルフに來ら
れなくなった話はごまんとある。ゴルフ場にいる
のに、大クレームで、呼び戻された某首相や米大統
領の例は有名だ。前日に、ぎっくり腰をやって、泣
く泣くキャンセルしたなどなど。

高齢者なら、あと何回ゴルフができるかを考えたり
するのではないだろうか。運動らしい運動は、ゴルフ
ぐらいしかできなくなった時を想像してみよう。そん
なとき、ざーざーぶりで、中止になったコンペを悔や
んでばかりいても、仕方がない。ゴルフへの自分の
情熱は大したものだったが、このまま始めていたら、
肺炎になっていたかも知れないのに、自分や仲間の判
断力はなんと優れていたのだろうか。何より、仲間達
の顔を見ることができたのは、とても良いことだ。こ
れも、ゴルフが中止になったことで、考えられたこと
だと。私には、次のコンペがないわけではないのだ。

外画の吹き替え翻訳32年

岩佐 幸子（昭和35年法）

昨年10月25日、外画動画吹き替え放送50周年の記念パーティーが催されました。司会はあの懐かしいスーパーマンの声、太平透さんでした。50周年記念事業実行委員会発行の『吹き替え文化50年』誌を参照しその歩みをたどると、

- ① 黎明期（1950年～1965年）
テレビ放送開始から3年後の1956年、外国テレビ映画の吹き替え版放送が始まる。
- ② 成長期（1966年～1975年）
66年に始まった、淀川長治さんの「さよなら、さよなら、さよなら」が記憶に残る『土曜（後に日曜）洋画劇場』を皮切りに、長編洋画枠が民放のゴールデン・アワーに続々と登場。
- ③ 発展期（1976年～1985年）
テレビと劇場だけだった媒体にビデオが加わり仕事の量が一気に増える。
- ④ 成熟期（1986年～1995年）
衛星放送の開始。BS時代の幕開け。
- ⑤ 爛熟期（1996年～2005年）
多チャンネル時代の到来。DVDプレイヤーの登場。デジタル技術全盛の時代。

この間1972年から2004年迄、32年余り吹き替え翻訳に携わってきました。

友人に紹介されて㈱東北新社を訪れて仕事を頂き、以後殆ど同社の仕事をしてきました。最初の作品は、『クスターの海底の世界』の『いるかは友達』で、幸い認めて頂き、続けてドキュメンタリー作品の翻訳に当たっていました。最初の長編ドラマは西部劇でした。ドラマの台本の書き方が分からず、たまたま画面の説明がカメラ・アングルまで書いてある非常に詳しいスクリプトだったので、それを全部訳してしまい、普通なら90枚以下で収まる原稿が200枚を越してしまいました。

何も分からずに外画翻訳の世界に入りましたが、徐々に、ゴールデン・アワーのお仕事も頂く様になりました。

映像の翻訳には、皆様ご存知の通り、字幕と吹き替えがあります。字幕は、スクリプトを、箱割りという作業で一つの字幕ごとに区切り、1秒間3～4文字以内の制限内で日本語に表現します。吹き替えは、放送開始当時「あの外人、日本語がうまい」と言った人がいるように、映像中の人物の声に合わせて、日本語の台詞を作っていきます。それを声優さんが日本語のお

芝居にします。

作業はフィルムを見て音を取りその音声に合わせて翻訳していくのですが、私が仕事を始めた1972年当時は、会社で16mmのフィルムを映写機にかけて回し、オープン・リールのテープレコーダーで音を取り、そのテープを持ち帰って作業していました。出来上がった原稿を画面と照合してチェックする為、また映写機のお世話になるのですが、何度も止めたり回したりするので、フィルムを切ってしまったり、止めて原稿を手直ししている間にフィルムがライトと接触して焦がしてしまったり、映写機の操作は恐怖でした。

1975年ソニーの家庭用ビデオが発売され、私達翻訳者も会社を通して購入しました。画面の見たい箇所を何度でもみることが出来るようになり、またテープレコーダーも、ピアノタッチの使いやすいソニーのデンスケが出て、作業は大変楽になりました。そして手書きだった原稿も、その後ワープロ、パソコンへと変わりました。

村上春樹さんと、東大の柴田元幸さんの共著『翻訳夜話』（文芸新書）に、翻訳のポイントは「原文の意味と流れと呼吸」とありますが、映像翻訳の場合も基本的に同じです。まず作品の正確な理解ですが、扱う作品のテーマは様々です。それなりの用語、言い回しを使わなくてはなりません。法律関係では、外岡明さんのご尊父、故外岡茂十郎教授のお弟子さんで、英米法の親子法が専門の友人、早大教授の三木妙子さん、医療関係では、アメリカのメディカル・アカデミーの会員である高校時代の先輩、医学博士の佐々木宗一郎さんが頼みの綱でした。勿論、様々な辞書、本も大事な情報源です。『スタートレック』（シリーズ中2本担当）『宇宙空母ギャラクティカ』と宇宙物が続いた時には書店で『宇宙船操縦マニュアル』などという本を見つけ買って来たりしました。

難しいのはジョークです。『世界の料理ショー』を担当した時には、まさに髪の毛をかきむしる思いでした。ショー番組ですのでグラハム・カーのジョークで会場がワッと笑います。そこにピタリ日本語のジョークを入れなくてはなりません。あの番組ではジョークの監修に故山民夫さんが付いていました。

簡単な言葉なのに手こずるのがbrotherとsisterです。米国や英国では、どちらが年長か年下かを殆ど気にしません。だが日本語では「お兄さん、お姉さん」の表現が必要ですし、言葉遣いが微妙に違います。取り違えるとシリーズ物では後で取り返しがつかなくなります。『ダイナスティ（愛と野望の館）』（NHKBS、後に地上波）の折、主人公の娘のファロンと息子のスティーヴンのどちらが年長か分からず会社から制作会社に問い合わせてもらったところ、返事は「Fallon is sister. Stephen is brother.」でした。近くにお住まいのア

メロカ人の方がお友達に聞いて下さりファロンがお姉さんだとわかりました。原文では第6話で初めてファロンが2歳年長だという台詞が出てきたのです。

原文の理解と同時に登場人物のキャラクターを見定め口調を決めます。男性なら「私、僕、俺、わし」のどれを使わせるか等です。また時代背景、社会背景、年齢によっても口調や言葉遣いは違ってきます。キャラクターによっては関西弁や九州弁を使わせたいと思うことがありますが、今のところ許されていません。

昭和30年代に大学生活を送った私達の世代にとって映画は最高の娯楽でした。洋画の洒落た会話や名台詞はいつまでも心に残っています。吹き替えでは1973年に始まった『刑事コロンボ』のシリーズ(翻訳故額田やえ子さん)の「うちのカミさんがね・・・」が有名です。ただ吹き替えの場合は耳から入って流れていくせい、またビデオでもDVDでも自宅のテレビ画面で観る為集中度が落ちるせい、残念ながら名台詞として視聴者の記憶に残るものは少ないようです。

字幕の名台詞については和田誠さんの『お楽しみはこれからだ』(文芸春秋)があります。タイトルは『ジョルスン物語』の台詞からで、原文は「You ain't heard nothin' yet!」です。台詞を取り上げた作品にまつわる逸話やエッセイが楽しい本です。

何年か前、長塚京三さんが出演するCMで、飲み会の後らしいシーンで、若いOLさんに「課長さんの後姿がみたい」と言われた長塚さんがニコニコとご機嫌で去っていくのがありました。JALの機内用の作品で『哀愁』の翻訳をしたのですが、かの有名な『別れのワルツ』の後、ヴィヴィアン・リーとロバート・テイラーが別れがたく見つめあうシーンで、ロバート・テイラーが「Leave me first.」と言います。直訳すれば「君から先に」「見送らせてくれ」ですが、それを「君の後姿が見たい」と表現した名台詞があります。まさに名訳だと感心しました。ディレクターからそのまま使うようにと言われ使いました。名台詞の定訳化というのでしょうか。長塚さんのCMを制作した方が「哀愁」の台詞をパロディとして使ったのだと楽しくなりました。「カサブランカ」の「君の瞳に乾杯」も同じでした。原文は「Here is for looking at you.」。直訳すれば「今君を見つめていることに乾杯」「君との出会いに乾杯」ですが「君の瞳に乾杯」を使いました。

翻訳は最終言語となる日本語で評価されます。日本語の語彙をいかに豊かにするかが問われます。今、改めて日本語について語られはじめ、本も数多く出されています。これから吹き替え翻訳に当たる方達が、敬語、謙譲語、丁寧語だけでない美しい日本語表現を自分の引き出しに数多く蓄え、的確で、しかも心に残る台詞を紡ぎだしていった下さることを願っています。

会員の広場

ウォーキング部会に参加して (鎌倉花散歩の会)

牧野 武夫 (昭和40年 理工)

一昨年まではフルタイムで勤めておりましたので、どの部会にも参加できませんでした。昨年からフリーになりましたので、初めて部会に参加させてもらいました。きっかけは何かをしなればと思っていたところ、この部会が始まるというお知らせをいただいたことです。

第一回より参加して、参加するからには皆様に迷惑をかけないように皆勤を目指したのですが、途中で、どうしてもはずせない用があり一回欠けてしまい残念です。

それでは、この会の楽しさについて少しお知らせしたいと思います。

部会長の毎回用意される親切な資料に基づいて、このお寺は誰が祭られているとか、どういう由来があるとか、神社、仏閣をまわりながら、そこに咲いている花が「この花はジンジャーですよ」「この花は紫式部です」とか皆様に教えていただきながら、いかに自分が何も知らないんだとあきれています。皆様の博識にはびっくりしたり驚いたり、楽しく回っております。

学生時代より専門の建築の知識を得るために、京都や奈良の神社仏閣を十数回、回ってきましたが鎌倉の神社仏閣もそれに劣らず、素晴らしい歴史を持っていることを改めて再認識しているしだいです。

神社、仏閣だけでなく花、樹木を主にしたウォーキングという新しい方法で楽しむ部会を発足させていただいたことに感謝しております。

これからも出来る限り参加して皆様と楽しくすごしたいです。まだ参加していない皆様もぜひ参加してみてください。



ウォーキング部会 鎌倉建長寺裏山にて

紀行文

夏の南ア荒川三山、赤石岳縦走記！ 朝焼けの雲海に浮かぶ秀麗富士に感激！

安藤 嘉昭（昭和42年法）

ついに待ちわびていた梅雨明け宣言の翌日、8月1日早朝山の友人と車で我が家を出発。一路樫（サワラ）島に向けスタート。東名清水ICで下り大井川鉄道を横に見つつ畑薙第1ダムに到着。倒木で道がふさがれるアクシデント。マイクロバスに乗換え午後2時1日目の宿、樫島ロッジに到着。はやる心を抑え就寝。

2日朝5時30分4日分の荷を背に久しぶりの重さを感じ「楽しい山旅」を念じつつロッジを出発。天気は良好！滝見橋、清水平、駒鳥池と気持ちのいいアルパイト。午後1時半今日のゴール千枚小屋に到着。

3日、今日も快晴！今年は最高にラッキーが続く！一昨年の南ア光岳→聖岳縦走計画では苦労も空しく、遠くの台風に勝てず、雨の中光岳のみで下山。

昨年は再トライ本州最南端の3000m峰・聖岳（3013m）も頂上の視界がゼロと努力が報われなかった。

今年はようやく神からのお慈悲が我々にもめぐってきた。天気への感謝もそこそこに、午前5時15分はやる心を抑え、千枚小屋を出発し山歩きを楽しむ。

真っ青な空を背に荒川三山の前座千枚岳（2880m）経て丸山（3032m）山頂に午前7時に立つ。

次は今山行のハイライト第1楽章＝荒川三山征服を快晴の午前中にと足取りも軽くなる。8月3日7時50分悪沢岳＝荒川東岳（3141m）、中岳（3083m）を経て前岳（3068m）に到着。遠くに仙丈岳、塩見岳など南アルプスの名山が堂々とした姿を見せ富士も手に取るようだ。久しぶりの感動を味わいつつ先を急ぐ。

今が盛りの高山植物の一面お花畑を堪能しつつ、荒川小屋へ。小屋で昼食し、明日の目標赤石岳が見え隠れしている道を、疲れた足に鞭打ち本日の宿泊赤石避難小屋に向けて一步一步。午後3時10分避難小屋到着。

本日のアルパイト10時間。

天気も良さそう。今登山のメインイベント、明日の赤石頂上までのご来光を祈りつつ就寝。

8月4日朝4時30分起床。赤石岳頂上までご来光を迎えるため足早にカメラ片手に頂上に向かう。

徐々に赤みを増す雲海。そこに神々しく浮かぶ富士の山！初めて見る感動！言葉では表せない素晴らしい光景！3年待った！それだけに感動も3年分！

皆に見せたい！語りたい！どう表現すればこの感動を伝えられるか？

ここの居合わせた幸せを感じる一瞬であった！

朝焼けの雲海が徐々に明るさを増して来た。いよいよ

よ日の出！徐々に上がる太陽とその右には赤みを増した雲海に浮かぶ雄大な富士山！

用心深い雷鳥までも我々の感動を演出するかのよう

に赤石岳頂上に姿を現し、花を添えた。
つらかった登り、重かった荷物も忘れる一瞬であった。この感動があるから山登りは止められない！

健康である限り、歩ける限りまた山があるかぎり私は山行を続けたい！

目黒稲門会の新人が、一人で興奮し、自分の勝手な趣味と感動を書かせて頂きました。

少しでも臨場の想いがお読み頂いた方に伝われば、望外の喜びです。

最後に目黒稲門会の方々と山行をご一緒をと言う方が居られましたら、ぜひ一緒にしたいの思いをお伝えし、今回の寄稿を終わらせて頂きます。
お読み頂きありがとうございました。

各部会からの報告・案内

麻雀部会

(1) 第16回三区連合親善麻雀大会

11月11日（土）渋谷の麻雀クラブ「スリーハンドレッド」に於いて三区（渋谷・世田谷・目黒）連合親善麻雀大会が目黒稲門会主催により開催されました。半チャン4回の親睦を深めた競技の結果、優勝は世田谷の江口氏でしたが、目黒は井村副会長が準優勝と健闘しました。

(2) 第28回定例麻雀大会

12月17日（日）武蔵小山の麻雀クラブ「サン」に於いて平成18年最後の定例麻雀大会が開催されました。和気藹々の4ゲームを制し 優勝したのは土方氏、準優勝は小池氏、三位は松尾でした。競技終了後雀荘裏の中華料理店「井門」に於いて忘年会を実施し部会員相互の親睦を一層深めました。

(3) 今後の大会予定

新年第1回の三区連合親善麻雀大会は渋谷稲門会主催により4月14日（土）を、また目黒稲門会の定例麻雀大会は6月3日（日）を夫々予定しております。皆様奮ってご参加ください。



部会長 松尾洋一

旅行部会

「茨城の旅」道中記

11月19日朝8時15分定刻目黒駅を富士急観光バスにて出発し道路事情も良く、9時50分には笠間稲荷神社到着45分の参拝と境内散策。11時笠間焼き工房見学後に水戸市内へ。徳川博物館の見学と昼食(斉昭御膳を堪能)1時40分水戸偕楽園着小雨降るなかを好文亭まで往復40分。雨が上がり、早めに宿泊ホテルの大洗へ。3時30分ホテル着、6時に2階宴会場での忘年会の開始。鯰鍋も大なべでの提供で満喫。9時からはカラオケの2次会で大いに盛り上がりました。

20日ビューフェでの朝食。8時30分ホテルを出発し、那珂湊の水産物屋でお買い物タイム。途中道をまちがえて遠回りしましたが、10時15分高萩のKDDI衛星通信所着。佐藤センター長の出迎えと親切な説明、案内に全員大いに感心しきり。(記念写真撮影)

11時15分通信所を出発し、花貫溪谷の紅葉を楽しみながら太子町の袋田の滝着40分の見学。トンネルをぬけた途端の滝に圧倒されました。また、帰路の反対側から見た滝と紅葉のすばらしさに感動しました。日が晴れていたらもうみじも更に美しかったろうと思いました。1時15分から思い出浪漫館にて昼食(軍鶏なべと鮎の塩焼き)と寛ぎ、2時30分一路帰途につき5時30分目黒駅着。バスは目黒通り沿いに走り、順次途中下車し最終八雲で全員帰着。無事終了となりました。



旅行部会長 井村 正陽

カラオケ部会

12月の例会では、応援歌「早稲田の栄光」のテープを挟んで士気の高揚を図り、終わりに恒例の「同期の桜」に変わって、目黒稲門会新年会の講演に奥島前総長を迎えるに当たって、奥島氏愛唱の「人生劇場」で本年のカラオケ部会を元気で締めようと荒瀬氏の音頭で声高らかに歌い上げました。

部会長 海口 昭治

ウォーキング部会

(鎌倉花散歩の会)

鎌倉の大仏、天園の2大ハイキングコースを中心に、晩秋の鎌倉の紅葉や銀杏など自然と歴史探訪をしつつ健脚を競い合いました。12月はウォーキングの後、今年特に美味の生原酒天狗舞の新酒と近海魚の料理での乾杯で1年を無事終了しました。

＜今後の開催予定＞

★集合は現地駅、午後1時(現地小雨決行)

第10回 2/16(金) 北鎌倉駅正面口改札前

— 早春に梅の香に誘われて名所を訪ねる —

円覚寺—東慶寺—明月院—建長寺—十二所果樹園—明王院—浄妙寺

第11回 4/2(月) 鎌倉駅西口改札前

— 春たけなわの西鎌倉のサクラめぐり —

長谷寺(長谷観音)—高德院(鎌倉大仏)—鎌倉山—滝口寺—満福寺

第12回 5/1(火) 鎌倉駅東口改札前

— 赤く燃え立つ躑躅と牡丹の名所を訪ねて —

鶴岡八幡宮ぼたん園—妙本寺—常栄寺—安養寺—安国論寺—妙法寺

お気軽にご参加下さい。

部会長 桑野 祐光

目黒・若手会

先輩方からの絶大なる応援のもと、昨年秋に第一回目黒若手会を開催して以来、今年も年数回の集まりを予定しています。

大学で過ごす時間はわずかに4年+αですが、更に広い世代・広い世界の先輩方と共に、人生大学校ともいべき同窓生の輪に入ってみませんか？

＜参加条件＞

平成年度ご卒業の目黒稲門会会員が中心ですが、もう少し年次が上の方や、ご家族ご友人も歓迎です。特に

■「稲門会行事への参加は知合いが少なく不安だが、若手ばかり少人数の集いなら参加してみたい」という、慎重さとオープン・マインドを併せ持つ方。

■「大先輩の多い稲門会の中で、若手の新しい流れを作るなんて、早稲田らしくていいじゃないか！」という、進取の精神あふれる方。

■目黒区内の美味しいお店をご存知の方(ぜひ！)

*この会報がお手元に届く前に開催される1月13日(土)若手新年会については、平成年度ご卒業の方を中心に葉書でご案内させて頂きました。

担当幹事 石川 智子

美術・歴史鑑賞部会

「知るを楽しむ」美術・歴史鑑賞部会。今回の催しは、戸栗美術館で開催中の「古九谷名品展」を鑑賞し、関香澄学芸員の解説で「古九谷」の美と謎に迫りました。

「古九谷」は濃厚な色彩と大胆で華麗な意匠が魅力的な色絵磁器で、加賀百万石前田藩、九谷の窯で焼かれたと考えられていました。しかし産地について、大きな疑問が投げかけられています。現在では、古九谷は有田地方で焼かれたとする学説が有力になり、今後さらに調査研究が望まれています。今回の参加者は、加藤会長以下40名で、内夫妻での参加が9組もありました。関香澄さんの淡々たる解説に、「やきもの」の世界の神秘に触れた意義ある一日でした。当会は先に静嘉堂文庫で「京焼」を学びましたが、今後機会をみて「有田焼」の歴史も学びたいと思っています。ご期待下さい。

なお、次回は3月10日（土）に東京都美術館で開催中の「オルセー美術館展」を鑑賞します。

部会長 八幡 和二郎

囲碁部会

1月29日（月）新年囲碁大会が下目黒住区センターで開催された。午前10時試合開始にもかかわらず定刻前に全員が集合し、その意気込みを感じた。午後5時まで熱戦が繰りひろげられた。参加者17名で4クラス、総当り、ハンディ戦の結果、優勝者はA古川欣一、B杉山泰大、C山口秀朗、D渡辺三郎の各氏でした。当日は校友会囲碁幹事の志水一夫氏がパソコンを持参し級位者の棋譜を収録し指導にあたった。囲碁上達の早道として棋譜を並べ直してアドバイスを受ける事の重要性は理解していても実践はなかなか困難な事である。志水さんの熱意にただただ感謝です。囲碁を習いたい人は気楽にどうぞ。



部会長 保井 正

部会案内一覧

詳細は本誌の各部会報告をご覧ください、興味をお持ちの部会にお気軽にご連絡下さい。

平成19年2月現在

部会名	部会長 担当幹事	連絡先 電話 /Fax	参加人数	当日会費 (年会費ナシ)	活動概要
囲 碁	保井 正		10 数名	500 円	毎月1回（下目黒住区センター）
カラオケ	海口昭治		15 ～ 20 名	3,000 円 女性 1,000 円	毎月 第二金曜 午後4～7時 「コートダジュール学芸大学店B1」
グルメ	海沼美智子		20 ～ 30 名	6,000 円～ 10,000 円	年3回程度 リーズナブルな金額 と雰囲気・味の良い店を厳選
ゴルフ	大野利幸		20 ～ 30 名	25,000 円程度	年2回 春秋 目黒通りバスで送迎 別途 秋に総長杯
ウォーキング	桑野祐光		20 ～ 30 名	なし(各自負担)	シーズン中は毎月1回程度
麻雀	松尾洋一		10 数名	3,000 円	年4回 武蔵小山サン 他区稲門 会との連合親睦大会（年3回）
美術・歴史鑑賞	八幡和二郎		15 ～ 20 名	その都度	年数回
旅 行	井村正陽		20 ～ 30 名	その都度	年2回 春秋
目黒 若手会	石川智子		数名	5,000 円	年数回 土曜夜 若手・準若手
※よん月会	土川俊雄		30 名程度 期待	4,000 円	毎月 第4月曜 午後6～8時 場所：「あっぱれ 都立大学店」
広報 HP	中西千可子	e メール URL	meguro-tomonkai@nifty.com http://homepage3.nifty.com/me96tomon-waseda/		

※従来の三土会は、名称を改め、「よん月会」として上記の通り実施いたします。

編集後記

奥島前総長のお話は、全員を深く感銘させ、叶うことならば学生時代に早稲田の原点に触れる機会が欲しかったという声が多かった。

本会報で全文を紹介したいところであるが、紙数の制限で割愛せざるを得なかったことは、残念至極である。
(外岡 記)